

# Green Map Uji

## eco community map

vol.02 2008 AUTUMN

エリア：天ヶ瀬周辺  
テーマ：天ヶ瀬周辺を散策して、地域の自然を感じよう

### ●グリーンマップとは

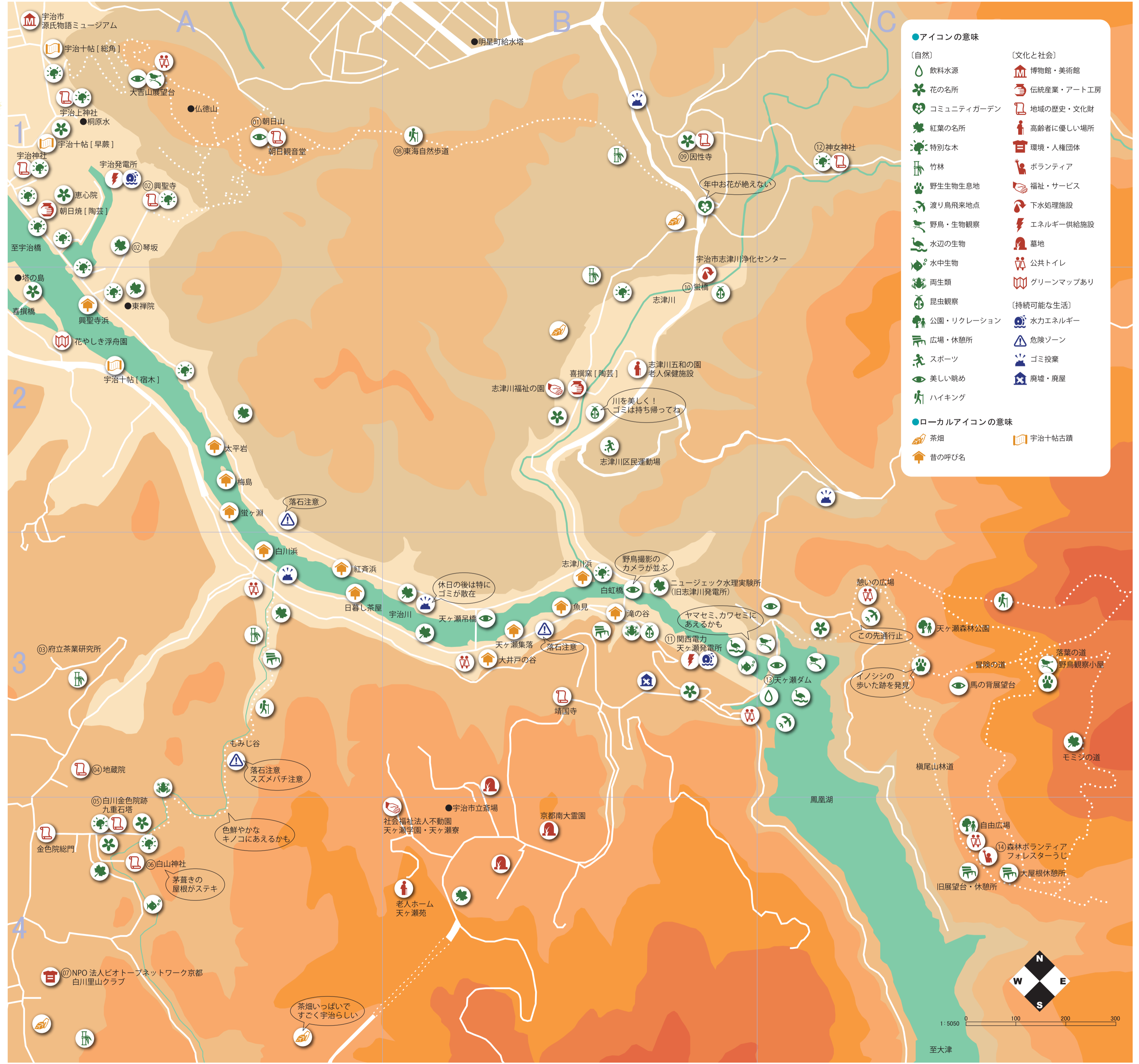
グリーンマップとは、いま自分たちが住んでいる地域の環境にいいもの、悪いものを調査し、世界共通のアイコン(絵文字)を使って地図に表す環境マップのことです。このマップ作りを通して、自分たちの身の回りの環境に問題意識を持ち、何が出来るかを考えていくことが目標です。このマップ作りの運動は、現在世界中で40カ国、250地域が参加し、持続可能な社会を目指す人々の、国際的なネットワークとして素晴らしい広がりを見せています。

### ●グリーンマップ宇治について

「合言葉はエコ・コミュニティマップ」地元である宇治のグリーンマップをつくることで、宇治を再発見したい！ そう思って発足したのが、「グリーンマップ宇治」です。2008年3月に「Green Map vol.1～宇治十帖を手がかりに宇治川周辺の環境を見る～」を発行しました。現在、社会人3名、京都文教大学学生7名の計10名で、ふんきょうサテキャン宇治構内を拠点に活動しています。宇治のグリーンマップをつくるにあたって、私たちが目標としたのは“地元の人々の目で作るマップ、そしてそこからコミュニケーションが生まれるマップ”でした。題して、「エコ・コミュニティマップ」です。グリーンマップ宇治は、その目標のためにもマップ作りの現場が地元を見つめる場、交流の場になっていくよう努力していきたいと思っています。どうぞこれからも、よろしくお願いいたします。

### ●グリーンマップアイコンについて

グリーンマップの特徴は子どもたちにも人気がかわいアイコンです。言葉を超えて情報交換できる視覚言語—グローバルアイコンは、自然環境・文化・社会に関係する様々なアイコンが含まれています。この Green Map Uji では34個のアイコンを使用しています。また、地域独自のローカルアイコンとして「茶畑」「昔の呼び名」「宇治十帖古蹟」の3つを作りしました。(この地図は、グリーンマップアイコンVer.3を使用しています)



- サイトの説明
- A1 ① 朝日山 山頂に朝日観音が祀ってある標高124mの山。宇治が一望できる。
  - A2 ② 興聖寺・琴坂 秋には参道(琴坂)両脇のみみしが映える。
  - A3 ③ 府立茶業研究所 優良品種の育成など茶に関する開発研究をおこなっている。
  - A4 ④ 地蔵院 白川金色院の遺宝が所蔵されている寺院。
  - A4 ⑤ 白川金色院跡 藤原頼通の娘・寛子によって康和4年(1102)に創建された御堂。
  - A6 ⑥ 白山神社 金色院の鎮守社で、拝殿は重要文化財に指定されている。
  - A7 ⑦ NPO法人ビオトープネットワーク京都 白川里山クラブ URL:http://www.geocities.jp/sirakawa\_satoyama/
  - B1 ⑧ 東海自然歩道 東京都から大阪府までの11都府県にまたがる長距離自然歩道。
  - B2 ⑨ 因性寺 志津川地区にある浄土宗の寺。
  - B2 ⑩ 蛭橋 夏になると志津川地区の川辺で遊がみられる。
  - B3 ⑪ 関西電力天ヶ瀬発電所 天ヶ瀬ダムの水質源を利用した発電所。
  - C1 ⑫ 神女神社 御祭神は市村島姫命(いちきしまひめのみこと)という女神。
  - C3 ⑬ 天ヶ瀬ダム 1964年に完成のドーム形アーチ式のダム。見学可。要予約。TEL:0774-22-2188
  - C4 ⑭ 森林ボランティア フォレスターうじ URL:http://www.eonet.ne.jp/~forester-uji2003/
- 宇治市周辺と今回の調査エリア
- 

Green Map Uji  
vol.02 2008 AUTUMN  
発行日：2008年11月29日  
企画：グリーンマップ宇治(京都文教大学平成20年度特色G P 学生プロジェクト)、京都文教大学フィールドリサーチオフィス  
発行：京都文教大学  
編集制作：マークイーズ・コンスタンディノス、青山勇気、江崎洋子、竹内彰伸、田中裕子、藤田朋美、藤原卓、牧慧、山下のぞみ、山中耕  
印刷：タケダ印刷株式会社  
お問い合わせ：京都文教大学フィールドリサーチオフィス TEL:0774-25-2630

許可無くこの地図を転載・複製することは禁じられています。  
グリーンマップはGreen Map Systemの商標であり、アイコン及びロゴには著作権があります。禁無断転載・複製。  
Icons ©Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved.

グリーンマップシステム  
URL: http://www.greenmap.org  
グリーンマップジャパン  
URL: http://www.greenmap.jp

この地図の制作にあたっては、宇治市の承認を得て、宇治市発行の1:10000都市計画図を使用しました。(使用承認20宇都市第469号)

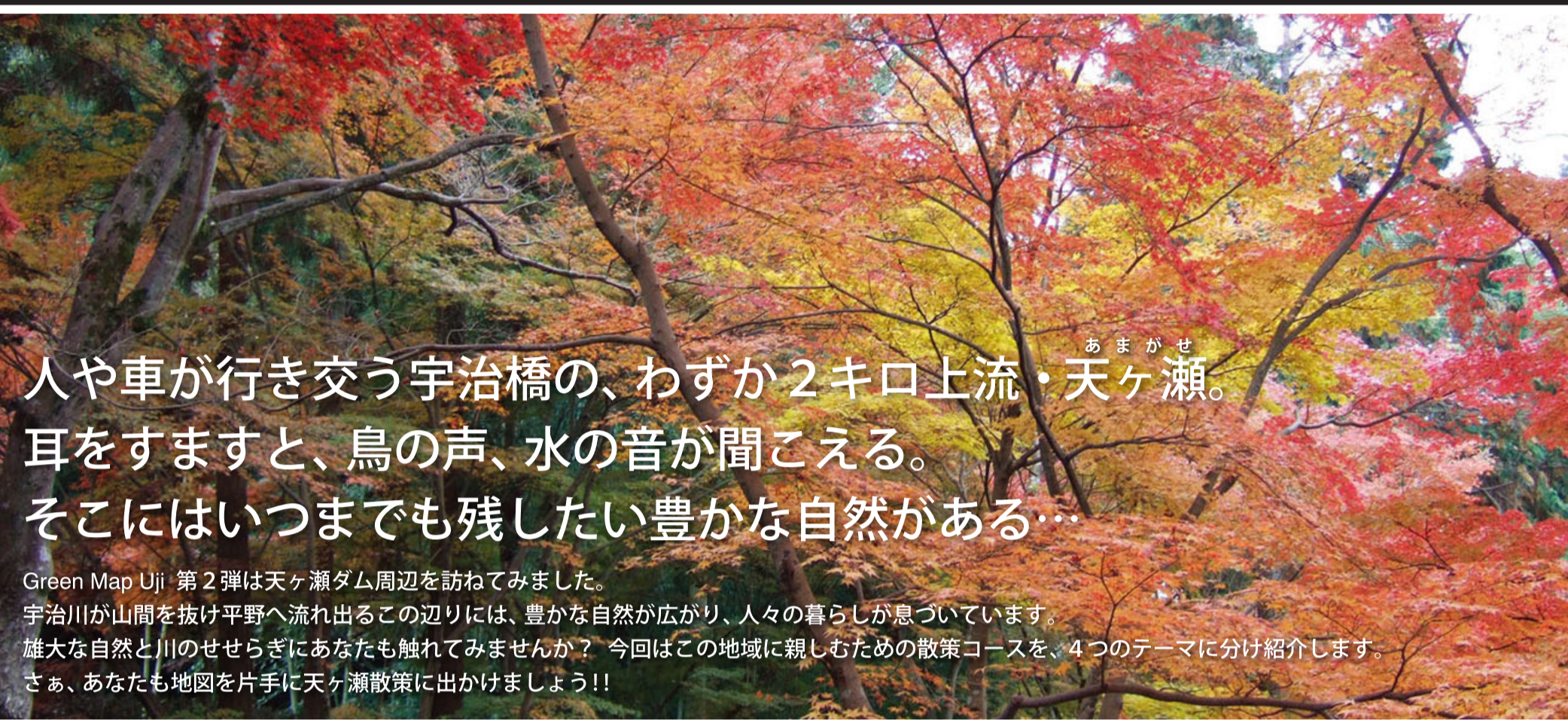
この地図の制作にあたってご協力いただいたみなさまに、こころよりお礼申し上げます。  
協力：F M Uじ、宇治市観光協会、宇治川観光通船、京都宇治準隊、森林ボランティア フォレスターうじ、花やしき浮舟園、尾長猫、高橋春夫、武田和清、武田公江、中島愛治、西村芳久、服部正吉、前野好彦、橋本正次、白木弘一、上野泰弘、松田理絵(順不同・敬称略)

# eco community Green Map Uji News Letter

グリーンマップをとおして、地域の環境を考える。  
News Letter を地域の eco community の場に。



2008年11月29日発行



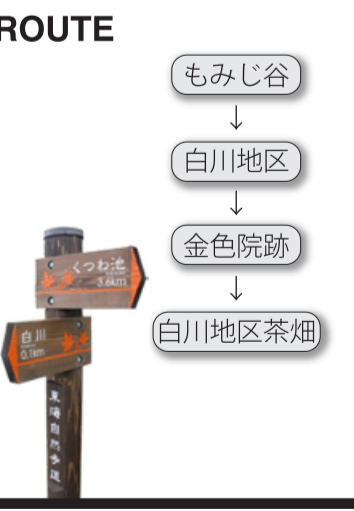
人や車が行き交う宇治橋の、わずか2キロ上流・天ヶ瀬。  
耳をすますと、鳥の声、水の音が聞こえる。  
そこにはいつまでも残したい豊かな自然がある...

Green Map Uji 第2弾は天ヶ瀬ダム周辺を訪ねてみました。  
宇治川が山間を抜け平野へ流れ出るこの辺りには、豊かな自然が広がり、人々の暮らしが息づいています。  
雄大な自然と川のせせらぎにあなたも触れてみませんか？今回はこの地域に親しむための散策コースを、4つのテーマに分けて紹介します。  
さあ、あなたも地図を片手に天ヶ瀬散策に出かけましょう!!

## 1 秋の宇治を堪能 —紅葉コース(もみじ谷・白川)—

府道3号線から宇治川の側道に入るとすぐに白川浜につき、そこからもみじ谷沿いに白川地区へ抜けることができます。もみじ谷に入ると近くを走る府道とは一変して草木に彩られ、土がむき出しの山道が表れます。そこには森が持つ独特のおだやかな空気を感じることができ、流れる小川の音がとても心地よくて落ち着きます。木の葉が空を覆っているので日差しを気にせずに歩けるでしょう。なだらかに続く山道を、森林浴を楽しみながら快適に歩くことができました。もみじ谷というだけあって道程にはたくさんのもみじの木が植わっています。紅葉の季節になれば色鮮やかな景色を見ることが出来ます。また、晩秋には散った紅葉が地面に敷き詰められている様を見たり、落ち葉を踏み音を楽しむことができるでしょう。途中、崖崩れがあったようで一部補強されている場所がありました。また、スズメバチ注意の看板もあり、それらへの注意も必要です。少し道なりに進むと平安時代に藤原頼道の娘、寛子によって建立されたとされる金色院の跡があります。当時、この一帯は貴族の別荘地として栄えていたが、現在は静かな集落となっており、総門のみがかつての面影を伝えています。また少し進むと金色院の鎮守社として建てられた白山神社へ着きます。鳥居をくぐり、急な階段を上りきると、木々に囲まれた境内に立派な拝殿が現れます。その後、白川で区長をされている服部正吉さんにお会いし、まちづくりの一環として宇治白川茶をさらに広めていきたいという話を聞くことができました。お話を聞いた後、実際に歩いてみると、茶畑が広がるのどかな風景にたくさん出会えました。普段、目にする機会が少ない茶畑なのでとても新鮮でした。そのまのんびりと道を下り、白川浜まで歩きました。とても有意義な時間をすごせたと思います。

もみじ谷はスズメバチ、崖崩れにより通行止めになる場合があります。 牧 慧/記

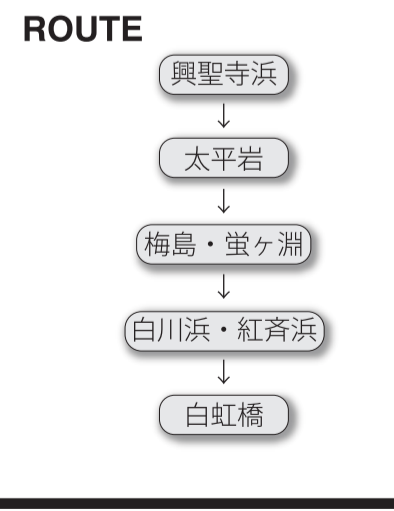


白山神社の本殿

## 2 昔の呼び名巡り —旧名所探訪コース(塔の島→天ヶ瀬ダム)—

塔の島上流の宇治川畔には、かつて親しまれていた呼び名が幾つもあります。前回の地図づくりでもお世話になった、宇治川観光通船の船頭・高橋春夫さんに昔の呼び名とそれに関するお話を伺いました。 ●興聖寺浜 朝霧橋が出来る以前の宇治川には宇治川の渡しと呼ばれる渡し船があり、興聖寺山門近くの「興聖寺浜」と親しまれた渡し船の乗り場から、現在、喜撰橋のある左岸までを行き来していました。当時の宇治川には幾つもの渡しがあり、これが一番上流の渡し場でした。 ●太平岩〜蛭ヶ淵 宇治川では渡しの他にも下り船や遊覧船など多くの船が行き来していました。船頭たちは上るときは種(か)いを使い岸沿いに進み、下りは水深のある川の中央を進むため種(ろ)を使って往来しました。「太平岩」周辺は宇治川で一番深く川風も強いいためいつも川面が波立ち、船頭の間では生憎おろしと呼ばれた難所でした。また「梅島」の左岸は「蛭ヶ淵」という蛭の名所で、戦後は観光納涼船から蛭見物を楽しみ、蛭が減少した頃からは舟に壺を置いて蛭を放した蛭舟を

運行し観光客を楽しませていたといえます。 ●白川浜〜天ヶ瀬 更に上流、白川へ続く道の下には船着き場があり「白川浜」と呼ばれ、小さな集落もありました。白川浜の少し上流の対岸に「紅斎浜(こうさいはま)」そして天ヶ瀬吊橋へ続きます。この区間は両岸に桜並木があり、春は花見客で賑わったといえます。でもこの桜も昭和28年の大水害で吊橋、日暮し茶屋と共に流され今は見る事ができません。吊橋と白虹橋(はっこうばし)の間には魚の豊富な「魚見」。その上流には今はダムの底ですが、汲み上げるほどの鮎がいたという「鮎汲み場」、「米かし」という場所もあったといえます。 これらの呼び名からもこの地域の人たちにとって川がいかに身近なものであったか、また宇治川が魚に富み、暮らしの要だったことが伺えます。 江崎 洋子/記

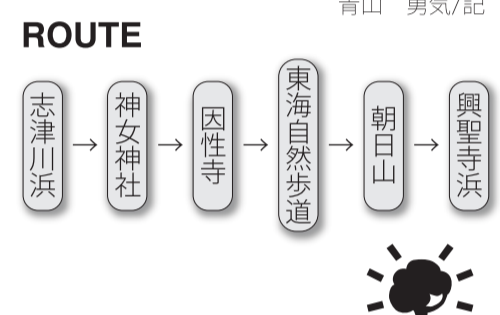


宇治川観光通船の事務所にて高橋さんと

## 3 豊かな森の中でリフレッシュ —森林浴コース(志津川・興聖寺)—

宇治川の右岸をまっすぐ上流に向かって歩いて行くと、だんだんと緑が深くなり、空気が澄んで涼しくなってきます。自然を満喫するのも良いですが、この辺りは道が狭いので車に注意が必要です。徒歩20分ぐらいで宇治川と志津川との分岐に到着。ここを昔の名で志津川浜と言います。近くには樹齢300年と言われている「榎(えのき)」の老木がひっそりと立っていました。そこから志津川に沿って歩いて行くと次第に視界が開け、志津川の集落が見えてきます。宇治の中心部からほど近いところにこんな自然豊かな場所があるなんて驚きです。山間にある集落ですが、明るく開けている感じがしました。集落の中心には蛭橋という橋があり、6月の県(あがた)祭りのころには川面や林の中を舞う蛭が見られます。川沿い(池尾方面)を歩いて行くと木々に囲まれた神女神社(しんにょじんじや)が見えてきます。この神社は山の中にあり、木と神社が融合して志津川の集落を見守っているように建っていました。ここから5分ほど歩いたところに、紅梅や黄色い彼岸花の咲く因性寺というお寺があります。その住職である武田和清さんは志津川の歴史や風土に詳しく、ここに暮らす人々の生活についてのお話を伺うことができました。因性寺を後にし、東海自然歩道へと足をを進め

ます。ここからは山道になり足元が悪くなるので、歩くのに少し苦労しました。豊かな自然を楽しむ道ですが、下の道路を見れば洗濯機などの大型ゴミが投棄されているのが目につきます。環境について深く考えさせられる光景でした。しばらくアップダウンを繰り返すと、朝日山と大吉山(仏徳山)の分岐にたどり着きます。ここから朝日山の頂上まではあと一息。朝日山の頂上には朝日観音を祀るお堂や菟道雅郎子(うじのわきいらつこ)の名が刻まれた石塔が建てられており、何だか厳肅な気持ちになりました。また、朝日山からは宇治の街を一望でき、今までの疲れを忘れてくれるほど美しいものでした。朝日山を下りると興聖寺に出ます。そこから両側の紅葉が美しい等坂を下り、興聖寺浜と呼ばれる自然の場所に着きました。宇治の豊かな自然を満喫できる約2時間半の散策でした。

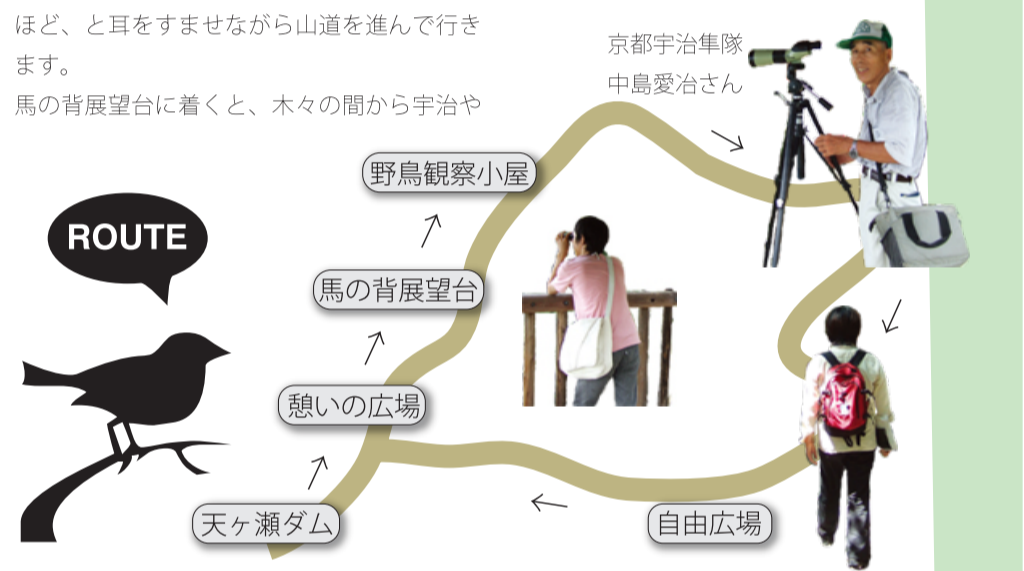


左: 白虹橋からの眺め 中: 志津川の集落 右: 東海自然歩道を行く

## 4 自然を感じ、鳥の声に耳をすます —野鳥観察コース(天ヶ瀬森林公園)—

宇治川をさかのぼると天ヶ瀬ダムにたどり着きます。アーチの上からの眺めはまさに絶景。私たちが訪れた日はダムの放水がなかったためか、手すりから下をのぞくと、カワウやアオサギやコサギなど多くの野鳥たちが、まだ暑さが厳しい空の下で水遊びを楽しんでいました。 「鳥たちに棲み良い環境は、人にも住み良い環境ですよ」と話してくださったのは、案内をしていただいた京都宇治集(はやぶさ)隊の中島愛治さん。野鳥については大ベテランで、この日も肩には大きな望遠鏡が。重くないか尋ねると、いっつものことなので平気ですと言われ、中島さんの野鳥に対する思いを感じました。階段を上り天ヶ瀬森林公園へ向かいます。まずは憩いの広場で今日のルートを確認。私たちは馬の背展望台を通って馬の背展望台から野鳥観察小屋を目指すことにしました。双眼鏡を片手に山道を登ってゆきますが、なかなか鳥を見つけれません。助言を求めると、まずは姿勢ではなく声を聞き分けるのだとか。なるほど、と耳をすませながら山道を進んで行きます。馬の背展望台に着くと、木々の間から宇治や

その先の町まで見渡すことができました。高いところから町を見るのは、どうしてこんなにわくわくするのか。みんな身を乗り出し、わかることを指しながら盛り上がりました。そして野鳥観察小屋の前でしばし休憩。この辺りにはイノシシやシカが通った足跡があり、リスに出会うこともあるそうです。 帰りは落葉の道とモミジの道を通って山を下りることに。夏の終わりなので、まだ木々は青々としていたが、きっと秋になればモミジが美しいはず。最初はセミの声に阻まれて聞きとれるのが難しかった鳥の声も、後半になってやっとコツがつかめてきました。曲がりくねった山道を抜け、自由広場の前を通る横尾山林道にたどり着く。 この日、最後に私たちにあいさつしてくれたのは、青い体に白い羽が美しいオオルリでした。その鮮やかな色合いを思い出しながら、中島さんの言う鳥にも人にも良い環境が続くために、私たちに何が出来るかと考え、天ヶ瀬をあとにしました。



藤田 朋美/記

## 春からの出来事〜活動紹介〜

●「第5回身近な水環境の全国一斉調査」宇治川エリア調査(2008年6月8日)  
河川環境管理財団が主催する「第5回身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、宇治川の水質を調べました。天ヶ瀬ダム付近から塔の島にかけて3つの地点を定め、宇治川の水を採取し規定の試験キットで水質をみるという作業です。普段よりもゆっくりと時間をかけて宇治川を観察すると、無数の白い泡が不自然に流れていく場所や、テラス・空き缶などゴミの絡みついている灌木(か)ぼく)など、数々の問題点を目的のたりにし、考えさせられることの多い調査となりました。今後のマップ作りにも、この経験を是非役立てていければと思っています。なお、この一斉調査の結果は今冬、河川環境管理財団のHPにて発表されるそうです。興味のある方は下記のURLから結果をご覧ください。  
<http://www.japan-mizumap.org/>

●「そらべあ」イベントへの参加(2008年6月14日〜22日 於ぶんきょうサテキャン宇治橋通り)  
ぶんきょうサテキャン宇治橋通りにおいて、毎日新聞社主催による「そらべあ」環境パネル展が開催されました。それに併せて、地球温暖化をテーマに子どもたちにも問題を提起する企画の一環として「親子でつくるグリーンマップ」を6月21日に行いました。当日は天気にも恵まれ、子どもたちは元気いっぱい宇治橋通りや宇治駅周辺を歩きながら、環境にいいもの悪いものを見つけては専用のシートに書き込みました。サテキャンに戻った後、それぞれ考えて選んだアイコンや、説明を書いた折り紙を地図に貼り、最後には素敵な宇治橋通りのグリーンマップを完成させました。楽しんで作業をしてくれる子どもたちに元気と今後の活動へのやる気をもらえた1日でした。

●宇治市消費者まつり(2008年7月19日 於宇治市産業会館・宇治市生涯学習センター)  
私たちが日常生活を送る上で直面する、消費問題・環境問題・食品問題、エネルギー問題等を楽しく考えようというテーマで、関連団体・企業がパネル展示をし、情報交換を行う宇治市消費者まつりが開催されました。私たちグリーンマップ宇治も環境問題ブースで出展させていただき、訪れたお客さんに活動を紹介します。また他団体の方々と互いの活動状況を報告しあう良い機会にもなりました。今後、関連団体と協力し、より広い視野での活動もしていきたいと思っています。

●訂正とお詫び  
Green Map Uji vol.01 において宇治十帖にちなんだ名前のつけられた石碑を、宇治十帖の「史蹟」と表記しておりましたが、もともとその場所は史実にもとづくものではありませんので、「古蹟」に訂正させていただきます。また、地図中の「京都文教大学・京都文教短期大学サテライトキャンパス宇治橋通り」の位置が間違っていました。併せてお詫び申し上げます。

●編集後記  
秋色のグリーンマップが出来ました。夏の終わりから秋にかけてのリサーチでは、天ヶ瀬の豊かな自然をたっぷり感じ、一人ひとりがこれからはなすべき事を考えるきっかけになったようです。宇治橋からちょっと足をのびして天ヶ瀬へ、あなたも是非一度足を運んでみませんか？

